



オリエンタルコンサルタンツが事務局を務め、日本自治体危機管理学会が主催、東京

オリエンタルコンサルタン

危機管理学会シンポ

オリコンサル事務局

防災情報の知識向上

都・河川情報センターと河川財団が後援したシンポジウム「大規模広域災害と災害情報」災害情報の出し方・伝え方「受け方」が、9月28日に東京都千代田区の砂防会館で開かれたII写真。水害や地震火災に対する今後の防災情報のあり方に焦点を当て、参加者は防災情報に関する知識を高めた。

市川宏雄日本自治体危機管理学会会長の開会あいさつの後、河川情報センター理事長の布村明彦中央大研究開発機構教授が「『逃げ遅れゼロ』のための災害情報」と題して基調講演した。

その後、防災情報の出し手・受け手・伝え手のそれぞれの観点から、山本孝二ハレックス相談役が気象情報について、藤山秀章河川財団参事が地震情報の出し方をそれぞれ報告。また、加藤孝明東大生産技術研究所准教授と廣井悠東大大学院工学系研究科都市工学専攻准教授は住民の視点に立った防災情報の受け方、谷原和憲日本テレビ放送網報道局ニュースセンター専任部長はメディアからの防災情報の伝え方をそれぞれ解説した。

続いて中林一樹首都大学東京名誉教授をコーディネーター、布村氏をアドバイザーに

パネルディスカッションも開かれ、行政やメディアが伝える防災情報を住民がどのように理解し、最終的にどう活用するのかが議論した。